

4. 花き類

(1) きく

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用回数	備考
エスレル10	開花抑制	全面散布（株全体がぬれる程度）	摘芯時又は定植後1週間以内及びその10日～14日毎	3回以内（エテホン3回以内）	
オキシベロン液剤	さし木の発根促進及び発生根数の増加	10秒さし穂基部浸漬	-	1回（インドール酪酸1回）	
		3時間さし穂基部浸漬	-		
		5～10秒さし穂全体浸漬	-		

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

使用目的	薬剤名	使用方法	使用上の留意点
さし木の発根促進及び発生根数の増加	オキシベロン液剤 （インドール酪酸0.4%）	1. 以下のいずれかを行う。 ・ 100～200倍液（10～5ml/水1ℓ）：5～10秒さし穂全体浸漬 ・ 2倍液（1,000ml/水1ℓ）：10秒さし穂基部浸漬 ・ 500～1,000倍液（2～1ml/水1ℓ）：3時間さし穂基部浸漬	
開花抑制	エスレル10 （エテホン10%）	1. 500～1,000倍で摘芯時又は定植後1週間以内及びその後10～14日毎全面散布（2～10ml/株、全体がぬれる程度） 3回以内	

・ 参考農薬

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用濃度又は希釈倍数	使用液量	使用回数	魚毒	蚕毒	備考
エスレル10	早期不時発蕾防止	全面散布（株全体がぬれる程度）	親株摘芯時	500倍	2～10ml/株	3回以内（エテホン3回以内）	I		きく（電照栽培）
ジベレリン水溶剤	開花促進、草丈伸長促進	茎葉散布	生育期	ジベレリン25～100ppm	50～100ℓ/10a	2回以内（ジベレリン2回以内）	I		
ジベラ錠									
ジベラ錠5									
ジベレリン錠剤									
ジベレリン									
ジベレリン粉末									
ジベレリン液剤									
スミセブンP液剤	節間の伸長抑制（矮化）	茎葉散布	摘芯10日後頃	25～50倍	5～10ml/5号鉢（原液0.1～0.2ml/5号鉢）	2回以内（ウニコナールP2回以内）	I		きく（ポットマム）
ビーナイン顆粒水溶剤	節間の伸長抑制	茎葉散布	生育期	500～5000倍	50～150ℓ/10a	4回以内（ダミジット6回以内）	I		きく（切花用）（施設栽培）
			摘芯後10日～7日又は定植3日後から発蕾初期	200～400倍	5～10ml/5号鉢	3回以内（ダミジット3回以内）			きく（ポットマム）（施設栽培）
	花首の伸長抑制		発蕾期～摘蕾期	500～5000倍	50～150ℓ/10a	2回以内（ダミジット6回以内）			きく（切花用）（施設栽培）

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用濃度 又は 希釈倍数	使用液量	使用回数	魚 毒	蚕 毒	備考
タチガレン液剤	発根促進	土壌灌注	挿し芽直後	1000 倍	5～10 ℓ/m ²	1 回(ヒト ^ト ロ キシ ^ト キサ ^ト ゾ ^ト ール 1 回)	I		

注1) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注2) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

(2) りんどう

・参考農薬

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用濃度 又は 希釈倍数	使用液量	使用回数	魚 毒	蚕 毒	備考
ジベレリン水溶剤	生育促進	茎葉散布	定植直前又は定植 1～5 週間後	ジベレリン 100ppm	50～150 ℓ/10a	1 回(ジベレリン 2 回以内 (但し、種子への処理は 1 回以内、は種後は 1 回以内))	I		
ジベラ錠									
ジベラ錠 5									
ジベレリン									
ジベレリン粉末									
ジベレリン液剤									
ジベレリン液剤	発芽促進	種子浸漬	は種前	ジベレリン 50 ～200ppm	-	1 回(ジベレリン 2 回以内 (但し、種子への処理は 1 回以内、は種後は 1 回以内))	I		

注1) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注2) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

(3) カーネーション

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用回数	備考
オキシベロン液剤	さし木の発根促進及び発生根数の増加	16～24 時間さし穂基部浸漬 5 秒さし穂基部浸漬又はさし穂 100 本あたり 10 ml をさし穂基部に散布	-	1 回(インドール酪酸 1 回)	
ビーエー液剤	側芽発生促進	茎葉散布	側芽発生前	2 回以内 (ベンジルアミノプリン 2 回以内)	
プレリユード液剤					

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

使用目的	薬 剤 名	使用 方 法	使用上の留意点
さし木の発根促進及び発根数の増加	オキシベロン液剤 (インドール酪酸 0.4%)	1. 以下のいずれかを行う。 ・ 200～400 倍液 (5～2.5ml / 水 1ℓ) に 16～24 時間さし穂基部浸漬 ・ 2 倍液 (1,000ml / 水 1ℓ) に 5 秒さし穂基部浸漬、又はさし穂 100 本当り 2 倍液の 10ml をさし穂基部に散布	
側芽の発生促進	プレリユード液剤 (ベンジルアミノリン 3.0%) ビーエー液剤 (ベンジルアミノリン 3.0%)	1. 側芽発生前に 300 倍液を株あたり 6 ml 茎葉に散布	

(4) トルコギキョウ

・ 参考農薬

薬 剤 名	使用目的	使用方法	使用時期	使用濃度 又は 希釈倍数	使用液量	使用回数	魚 毒	蚕 毒	備考
ジベレリン水溶剤 ジベラ錠 ジベラ錠5 ジベレリン錠剤 ジベレリン ジベレリン粉末 ジベレリン液剤	生育促進	茎葉散布	生育期間中にロゼット化した時	ジベレリン 50 ～100ppm	30～40 ℓ/10a	1 回(ジベレリン 1 回)	I		

注1) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注2) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

(5) ストック

薬 剤 名	使用目的	使用方法	使用時期	使用回数	備考
ビビフルフロアブル	開花促進	茎葉散布	葉数 10～14 枚時とその 7～10 日後	2 回 (プロヘキサジオンカルシウム塩 2 回以内)	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

使用目的	薬 剤 名	使用 方 法	使用上の留意点
開花促進	ビビフルフロアブル (プロヘキサジオンカルシウム塩 1.0%)	1. 葉数 10～14 枚時とその 7～10 日後の 2 回 1,000 倍液 (100ℓ / 10 a) を茎葉散布。	1. 散布は所定の散布水量で茎葉部に均一にかかるようにする。 2. 他の農薬や葉面散布剤とは混用しない。 3. 処理により節間がやや伸びる傾向にある。

(6) チューリップ

・参考農薬

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用濃度 又は 希釈倍数	使用液量	使用回数	魚 毒	蚕 毒	備考
オキシベロン液剤	花茎基部の 伸長	1株あたり 1mlを葉間 に滴下	第1葉の長 さが9～ 10cmの時期	20～40倍 (50～25 ml/水1 ℓ)	—	1回(インド ール酪酸1 回)	I		
ジベレリン液剤	開花促進	筒状の葉の 中心部に滴 下	草丈7～ 20cmの時に 7日間隔	ジベレリン 400ppm	1球あたり 1ml	2回以内 (ジベレリン 2回以内)	I		チューリップ (促成栽培)
フルメット液剤	花丈伸長促 進及び茎の 肥大促進	ジベレリン 100ppm液に 加用、葉筒 内滴下処理	草丈7～ 10cm時	ホルクロルフェニ ン0.05～ 0.1ppm	—	1回(ホルクロ ルフェニロン1 回)	I		チューリップ (促成栽培)

注1) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注2) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

(7) シクラメン

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用回数	備考
エスレル10	開花抑制	茎葉全面散布	花芽発達期(但 し、初回散布以降 は20～21日間隔 を開ける)	3回以内(エテホン3回 以内)	

注1) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

使用目的	薬剤名	使用方法	使用上の留意点
開花抑制	エスレル10 (エテホン 10%)	1. 花芽発達期以降、出荷の90～120日前までに、500倍液を株当たり4ml散布する。 (初回散布以降は20～21日間隔を開ける。3回以内)	1. 生育が不良な株に用いた場合、生育抑制あるいは開花数が減少することがあるため、使用しない。 2. 最終散布日は7月下旬～8月下旬とする。 3. 処理時期が遅れると出荷時の開花数が減少するおそれがあるため、最終散布は出荷を希望する90～120日前を目安とする。ただし、地域及び品種によって処理時期が異なるので、十分注意する。 4. 薬剤処理後、一時的に枯死葉、黄化葉、あるいは花卉の緑化が認められることがあるが、その後回復し品質には問題ない。 5. シクラメンに本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬効・薬害を十分確認してから使用する。

・参考農薬

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用濃度 又は 希釈倍数	使用液量	使用回数	魚 毒	蚕 毒	備考
ジベレリン水溶剤	開花促進	花蕾を含む 芽の中心部 に散布	9月中・下 旬	ジベレリン1～ 5ppm	1株当たり 2～5 ml	1回(ジベ レリン1回)	I		
ジベラ錠									
ジベラ錠5									
ジベレリン									
ジベレリン粉末									
ジベレリン液剤									

注1) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注2) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

(8) カラー

・参考農薬

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用濃度 又は 希釈倍数	使用液量	使用回数	魚 毒	蚕 毒	備考
ジベレリン水溶剤	生育促進	茎葉散布	花茎伸長期	ジベレリン 50ppm	50～150 ℓ/10a	1回(ジベ レリン2回以 内)	I		
ジベラ錠									
ジベラ錠5									
ジベレリン錠剤									
ジベレリン									
ジベレリン粉末									
ジベレリン液剤	生育促進	球根浸漬	植付時	ジベレリン 50ppm	-	1回(ジベ レリン2回以 内)	I		
ジベレリン錠剤									
ジベレリン液剤									

注1) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注2) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

(9) プリムラ

・参考農薬

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用濃度 又は 希釈倍数	使用液量	使用回数	魚 毒	蚕 毒	備考
ジベレリン水溶剤	開花促進	株の中心部 に散布	11月上旬頃 の花蕾出現 直後	ジベレリン10 ～20ppm	1株あたり 2～5 ml	1回(ジベ レリン1回)	I		プリムラ (マラコ イデス)
ジベラ錠									
ジベラ錠5									
ジベレリン									
ジベレリン粉末									
ジベレリン液剤									

注1) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注2) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

(10) ペチュニア

・参考農薬

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用濃度 又は 希釈倍数	使用液量	使用回数	魚 毒	蚕 毒	備考
ビーナイン顆粒水 溶剤	節間の伸長 抑制	茎葉散布	定植後2週 間目	100～200倍	50～150 ℓ/10a	1回(タミジット [®] 6回 以内(但し、水溶 剤は4回 以内)	I		ペチュニア (施設栽 培)

注1) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注2) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。

(11) その他花き

・参考農薬

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用濃度 又は 希釈倍数	使用液量	使用回数	魚 毒	蚕 毒	備考
ビーナイン顆粒水 溶剤	節間の伸長抑制	茎葉散布	子葉展開 後	200～400倍	50～150 ℓ/10a	2回以内 (タミジット [®] 4回以 内)	I		はばたん (施設栽 培)
			鉢上げ後						
			定植後3 日～30日	100～200倍	50～150 ℓ/10a	1回(タミジット [®] 1 回)	I		ポインセ チア(施設 栽培)
スミセブンP液剤	節間の伸長抑制 (矮化)	茎葉散布	摘芯10日 後頃	15～25倍	5～10 mℓ/5号鉢 (原液 0.3～0.5 mℓ/5号 鉢)	2回以内 (ウエコナゾー ルP2回以 内)	I		ポインセ チア
ルートン	挿木(挿 苗)時処 理して発 根を促進 する。	1) 挿木(挿苗)の基部 を3cmぐらい水にひた しその部分にうすい層 になって付着する程度 に粉のまままぶす。2) 或いは本剤を適量の 水でペース状にねってか ら挿木の切り口にぬり つける。日陰干で乾燥 してから挿す。この場 合挿木(挿苗)にあまり 多量に厚く塗布しな いようにすること。上 記の方法で処理し挿し おわったら周囲に土を かけてよく固めておく こと。	—	—	—	—(1-ナフチル アセトアミド [®] —)	I		花き(き く、ゼラ ニウム 等)
オキシベロン液剤	さし木の 発根促進 及び発生 根数の増 加	12～24時間さし穂基 部浸漬	—	200～400倍 (5～2.5 mℓ/ 水1ℓ)	—	1回(イント ール酪酸1 回)	I		花き類・ 観葉植物 (カーネ ーション、 きく及び チューリ ップを除 く)
		5～10秒さし穂基部 浸漬		2倍(1000 mℓ/水1ℓ)					

薬剤名	使用目的	使用方法	使用時期	使用濃度は 又希釈倍数	使用液量	使用回数	魚毒	蚕毒	備考
ジベレリン水溶剤 ジベラ錠 ジベラ錠5 ジベレリン ジベレリン粉末 ジベレリン液剤	発芽促進	種子浸漬	は種前	ジベレリン 50～ 200ppm	—	1回(ジベ レリン1回)	I		花き類 (りんご を除く)
ジベレリン錠剤	発芽促進	種子浸漬	は種前	ジベレリン 50～ 200ppm	—	1回(ジベ レリン1回)	I		花き類

注1) 農薬のラベルに記載されている注意事項を必ず読む。

注2) 使用回数の欄の記載は、収穫物への残留回避のため当該剤及びそれぞれの有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

注3) 農薬登録上の作物名が標記の作物名と異なる場合、備考欄に記載した。